

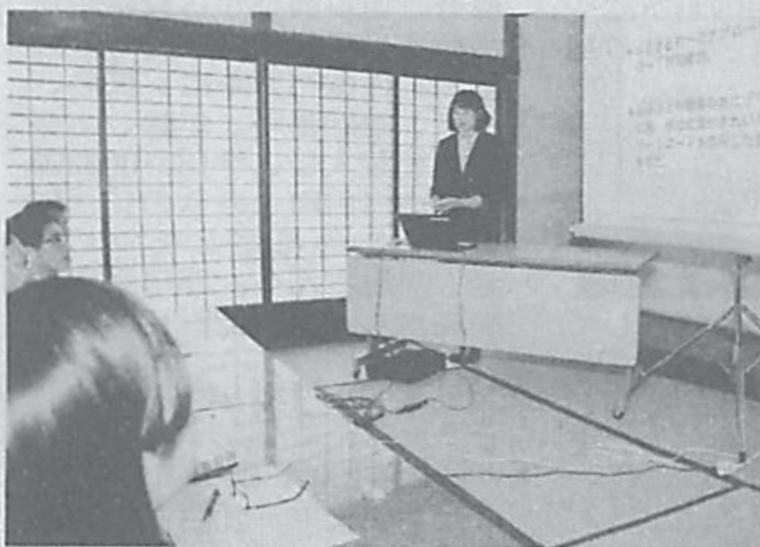
ふるさと村に

学生の知恵

かやぶき屋根の古民家などを保存・展示している「小平ふるさと村」(小平市天神町)の旧小川郵便局舎で4日、文化学園大生がふるさと村のプロデュース企画を競う発表会が開かれた。

同大国際文化・観光学科の栗山丈弘准教授(38)が指導する2年生11人が昨年12月、同村でフィールドワークを行い、活用のアイデアを練ってきた。この日、学生は1人持ち時間5分で企画を発表し、

プロデュース企画競う



小平ふるさと村をプロデュースする企画を発表する文化学園大生(4日、小平市天神町の小平ふるさと村で)

小平市の担当課長ら7人の審査員が発想の新規性や集客効果など5項目で採点した。
審査の結果、治井香乃さん(20)が提案した、同村に隣接する遊歩道「小平グリーンロード」でのスイーツマラソン大会企画が最高評

高評価案 新年度に実現も

価を獲得。治井さんは「ふるさと村は若い世代があまり来ないので、人気のランイベントをやったらどうかと考えた。実現したら、私も走りたい」と声を弾ませた。
そのほかの企画は、歴史好きの男女を集めた婚活パーティーや、ろうそくの明かりでスローな夜を楽しむキャンドルナイトなど様々。学生らしい自由な感性から生まれた企画に対し、審査員からは称賛の声が上がることも、「予算はどれぐらいかかるの」「長期的に盛り上げるにはどうしたらいい」と熱のこもった質問が飛んだ。高い評価を得た企画については、新年度に実現する可能性があるという。
栗山准教授は「学生のアイデアを、小平市のまちづくりを生かしてもらえたらうれしい」と話していた。